兵士不純21~30

猫離脱

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
兵士不純２１~３０

【Ｎコード】
Ｎ２３７６Ｌ

【作者名】
猫離脱

【あらすじ】
兵士不純２１＜３０
師匠と再会す

兵士不純――――――――――――――――――――――21〜30

２１

答えを得た。最初と最後を得た。だがまだ足りない。大きな風船が必要だ。入れるのは空でも何でもいい。ただ規模を大きくするのだ。囮は決まっていた。餌をまいた。いつになく大胆に行動した。抜かりもない。そして苦情を入れてやった。この世界の不具合、疑問、今後についてお伺いを申し上げた。私にはその権利はあるはずだった。私以上にこの世界を知るものはいなくなった。同列のものはなくだから私にはさらに上にいるものに対して意見がいえるのだ。おおっぴらにするぞと脅して。
そして師匠が現れた。
私のレベルは師匠のそれを超えていた。
師匠は私に語りかける。
強くなったな。そして久しぶりと。
私はなじみのホテルの高い所にあるバーを貸し切りにして師匠を迎えた。
酒は飲まないんだ。酔わないし。師匠が言う。
私は紫とピンクの混じわりをすすった。
水を、と師匠が言い。
バーテンが水をグラスに入れてからからからまわして出した。
出てっていいわよと私が指示をして私はカウンターの中に入った。
何かつまむものとかあればいいんだけどね。
ないわ。
大事な話があるの。
私は計画を崩して直球勝負に出た。
力を貸して欲しい。

ある計画があって師匠の力がいる。
力を貸してくれたらここから足を洗う。
もうこない。面倒も起こさない。
師匠は面食らったみたいで水を飲み干した。
ビールなら飲めるかな。
カクテルはどうも苦手で。
私はコロナの栓を抜きライムを割り口に刺してやった。
瓶が二つ並んだ。
飲む前に師匠が言った。
どんな。
私はライムを奥に押し込んで泡立てて、金色に浮かぶ緑の月をみて言った。
大事な、今一番大事なこと。
師匠はライムを奥には押し込まなかった。それを手に取り掲げ顔を顎を口を開け指で絞り汁を垂らし舌でのどに流し込んだ。私を見て見たままコロナを取り上げ半分以上も一気に流し込んだ。
こういうのもありだよな。
たまにさ、野蛮なことするのはストレスの発散にいいらしい。
襟元からこぼれたビールの水滴に光が屈折して飾り物のようであり口元を手の甲でぬぐう仕草はすてきだった。

22

依頼、私は聖騎士とともに伝説をつくるためいくつかの戦場をまわり最後に果てた。そこらへんは師匠はうまくだれもまねできない。
管理者のお手の物。私は夜の桜。昼の桜。美しく散った。
その間に計画を打ち明け相談し、どうやら聖騎士とその温存していた7人の同士が扇動の仕掛け人になってくれるのとのことになった。
また約束の誓いとしてお互いの名を明かすことにした。どちらがいいだしたのだろう。契約書の替わり。これはかなり勇気のいること

だった。田上さん。そうこれは田上さんがいいだしたことだ。美緒。
私は美緒。
そういうこと。
美緒はスタートを切った。５月１０日午後３時一斉に外へ出るんだ。
指示が飛んだ。それは約束だ。そうしなければならない。通信を切って、仕事を休んで、学校も、なにもかも、関係ない外へ出るんだ。
梃子の５０の１０は進んだ。
うらっかえすまであと４０。
そこらへんは私は田上さんの連絡を待っているだけでよかった。
その後、彼に連絡する。
最後の一押しの彼にボタンを押してもらう。
完成する。
私はダッシュで逃げ去るんだ。
３時に扉を開けてダッシュで逃げ去る。開いた扉のどこへ飛び込むのか楽しみだ。
もしかしたらすべての扉が開け放たれてしまって元には戻らないかもしれない。
田上さん、彼、私。
どこで落ち合おう。
わたしたちは核だから守らなければならない。
膨大な行ったり来たりで正面衝突が発生したり交通渋滞になってしまう前に逃げるんだ。

２３
量をつくるのは難儀なことではない。ただ段取りを惜しまないことだ。流れに乗せて方向付けをするだけでよい。２本３本の支流が大きな本流になり海へ注ぐ、それを手助けしてやればいい。
最初も知らない最後も知らない。山も海も見えない。すべてはたとえ話だ。

だいたい、だいたいだ。
落ち合ってどうする。
美緒ともう一人、彼女の彼氏か弟か。もうひとり、私の探している人があなたであったようにあなたの探している人が彼かもしれないとはうまいことを言う。
期待している自分がいる。
私にもただそれだけ。美緒という女がいうように私にもそれがただそれだけだ。
どうなるかがわからない闇の明日を息をつけないほどに感じている。かすかな光が私にとって彼だ。
むしむしした生命活動のやつらとは一緒にいたくない。欲の塊。くさい息。どろどろの中身。熱気にあふれ声を上げ驚き叫び悲しみ嘆く。
みな泥に飲み込まれればいい。そのあと綺麗な花や草や虫達を咲かせてくれ。
でも半分だ、せいぜい半分だ。極みから極みに到達して引き返す人間は少ない。それもみながみなそうではない。中和させるのが美緒の考えだ。
そして封じるのだ。自ら封じられるのではなく世界を封じにかかる。足を引っ張ると言い方が近いかもな、連中にとっては。
取り付き停滞させ平準化を図る。
そういった調整がしたいんだろう。そして自分はお目当ての人と逃げる。
そういったことだ。
そういうことだ。
それがどうということもない。
私は彼にあえるだろうか。

２４

美緒と言います。名を名乗るのは初めてなのではじめまして。そしてよろしくお願いいたします。あなたにお願いする仕事は何百何千何万単位で送られてくるデータを最後のところで丸めてもらうことです。
言っていることがわかりますか。
わかります。ぼくは答えた。
例えば１９９９というデータを２０００にするということでしょ。４７５６２３８と１３１２６７を６４７６２６００にすることでしょ。
まあそこまで桁は大きくはならないけどねと美緒はいった。
私のことは美緒と呼んで。
ぼくは初と言います。
初と呼んでください。
もう始まってるんですか、初は言った。
ええ。
今日することがなくとも生きている。アスすることがなくとも生きている。
それってぼくのことですか。
いえ、そうなの。
さあ、そうかも。
私が毎日２０時間も何を追いかけていたかわかる。ないことへの恐怖からの解放よ。
死への恐怖ってやつですか。
そうともいうわね、笑っちゃうでしょ。
どんな複雑に綿密に難しい専門用語や仕組みや物語を突き詰めても単語の一つや二つで答えが出る。出ている。
太陽の下になんとやらですか。
そう。そうよ。
そう。そうですね。
これも答えですね。

ＹＥＳ。
ＹＥＳ．ＹＥＳ。
でも、ＮＯもかなり積んだんでしょ、いまさらって気がするけど。
反対の反対は＋１たす－１は。
それらの距離は、ゼロを挟んでのその距離は無限とも聞きますが。
私にはわからない。あなたにはわかる。それでいい。
あなたを信頼している。
ひとりで切り抜けるなんて無理だと気付いたの。
だからお願いにあがった。
ぼくだけ、に。
もう一人私の師匠がいる。彼はもう動いている。最後はあなた。
それでいい。
それでどうなるんですか。
なにがどうなり、いや、なにをどうしてどうなるんですか。
答えはあるわ。
成功もする。
そういうのわかるの。
で、望みがかなうと。
かなうでしょうね。
・。
聞かないの、どんな望みだとか。
ええ、まあ。
なぜ。
深く関わるのはちょっと。
そんな感じがする。
じゃあ、お願いね。
うまくいく。
報酬はいまのところはなし。
後で考えとく。
ああ、あそこに私はいないから今後の連絡はここで。

そうやって美緒と別れ、午後の作業に取りかかった。

２４

動いている間という感じだが、動く歩道に乗っている感じ。景色と時間がたっていく。

美緒はそとにでて様子をうかがい、部屋で２０時間以上を黙って過ごす。浴室で体がふやけるまでぬるま湯につかりひたひたと水滴をフローリングに垂らしたまま膝をつく。床に地図でもあるかのように指で水線をなぞる。

繰り返し繰り返し夢を見て行動を起こし成功はなく失敗して初めてそれを補うべく行動して成功し成功し成功しあきてきて失敗してそれを補うべく成功して成功して。留まることを知らない。留まることをしらない。

留まるときにだれかそばにいて欲しいものだ。

これは本能か。思考か。

身を削りタイムを削り時間を削ったつもりになり幻。

失ったと思いこみ浮上のきっかけを掴む。気持ちの問題。

気持ちの問題。

データを送った。

２５

３時の時間になり私の扉がチャイムを鳴らした。この音はどこから鳴るんだろうと初めて興味を持った。スイッチは外にあるが、上を見たり下を見たり、私はすっかり準備はできていたのだがものおじしていた。そして何回目かのチャイムに対して返事をし、そのせいで世界は静まった。内鍵を外し扉を開けると、男が立っており、田上初と名乗るのだった。

２６
暗号ですか、と美緒は笑った。田上も笑った。
うまくいきましたねぇと田上が言った。
えぇまあと美緒が答えた。
そして、ふたりは、一緒に逃げた。
財産をありったけかき集めると以外とちっぽけだが貴重に思える。
何のためにそれが必要かが明らかになる。
行く当てはなかったが、田上が山での話しをすると杜氏に会いに行くべきだという話しになった。
息子さんの話をしてあげなきゃと美緒は言った。
田上は息子のことについて杜氏は知っているんだろうと思ったが美緒に押し切られた。

２７
山から戻ったのはなぜか。戻らない息子の理由。ただそうだとしかいいようがない。居心地は悪くなかった。淋しくもなかった。山がよかったのだろう。不安とか恐怖とか、街にいるとより感じるのはなぜか。
きっと人の多数の人たちの感情が流れ込んでくるせいだと。いらいらも無力感も過食も浪費もそのせいだと。エネルギーが増幅されるんだと。田上は解釈していた。
わずらわしさを回避させてくれるのが山だった。きっと杜氏のもとで仕事して綺麗な心で山に入ったことが幸いしたんだろう。もやもやをいだいたままなら己のもやもやにつぶされていた。

２８
ぼんやり生きているものは街にはいない。これがいいと聞けば試す

し、パワースポットに群がりパーわーを得る。運気を改善し健康に気を遣い金運アップを図る。
積み重ねを大事にして膂力を怠らない。人を尊敬し親を大事にし墓参りも欠かさない。
すばらしい人たちが増えている。自分たち以外のものは排他、駆逐、無視。
汚らわしい。さもあらん。
だがそうだろうか、連中は耐えられるだろうか、反動をしっているだろうか、彼らは綺麗なのだろうか。
そんな人たちに送る午後3時のおやつをお見舞いして、一時的に混乱を招いた街の中それをカモフラージュにしてわれわれは杜氏の元へ向かっていた。
ただそれだけの為のテロ。その移動のためのテロ。結果としてそうなってしまった。が、連中はそれすらも慣れているに違いない。自分たちがやってきたことを少し返しただけだ。少し。波を返す。運気あげて欲しいものを返してやる。ほんとに欲しいものを返しただけ。
あふれ出して下水に落ちる、もったいない。

29
よう、嫁さん連れてきて、挨拶か。
杜氏の家を探すのは難だった。ようやく富田の表札を見つけ呼び鈴を押すが不在。路地のこじんまりのとした家で川縁にありたどり着くまでブロックの4件の家をそれぞれ当たらなければいけなかった。小京都と呼ばれている街だった。時期が来ると仕事場にこもりそれ以外はここの自宅で過ごすのだという。
近くのラーメン屋で食事がてら時間を潰した。
帰り道、橋の真ん中で山を見ている杜氏に声をかけることができた。写真を撮ってもらった。

３０

富田康史と申します。

杜氏は雇われ今は年金暮らしです。中国からやってきました。知ってますか外国人でも年金納めるともらえるんですよ。日本はいい国。本当に。昔は死ぬときは故郷に帰りたいと思っていたがもはやここが故郷。

ああ。息子の写真です。ひとり息子でね。かわいかった。だけれどもねぇ、私にはなじんだいい国だが息子にはそうはならなかったようで。行ったり来たりしていたようだった。そのうちいろんな思想を埋め込まれて、いや、これは言い方悪かった。いろんな考えに混乱していくしかなかったんだろうね息子は。

そうですか、山で会いましたか。そんなものを追い求めるしかなかったんです。無事願いが叶ったと言うところでしょうか。

中国の昔話にこういうのあります。

仙人になった話しです。

男がおりました。彼は幼い頃拾われてきた子でした。父と母が本当の親でないことを知らされるとその家を出て行きました。彼は仙人がいるという山に修行に入りました。本当の父と母を捜すためでした。彼は厳しい修行のすえ力を得ました。本当の父も母が彼のために亡くなったのを知りました。彼は悲しみました。彼は仙人の力を育ての親のために使いたいと山を下りることを願い出ました。彼の修行の師はそれは止めた方がいいと言いました。山を下りると力を失うのです。しかし男は力を失っても育ててもらった親に恩を返したいと再度願い出ました。師が止めたのにはもう一つ訳がありました。育ての親も男が山で修行している間に亡くなってしまっているのです。

師は男にそれを告げました。

男はそれから山を下りることはなく仙人として山山を渡り歩き山に

は入るものがあるとこれを妨げ追い返す荒神となったのです。
息子は本当の息子です。母親は亡くなりましたが息子が二十歳を超えてからでした。ですので彼の問題はなぜ中国人が日本にいるのかと言うことにつきるのだと私は思います。
母親も私も中国人です。日本の方にわかりやすく言えばわれわれは華僑です。私の例で言えばさるお方のご尽力で日本に住んでおります。頼まれごともされます。小さなことから大きなことまで。息子にもそれとなく話しておりました。ただまだ息子は若く、心の方も固まってはおりませんので全部が全部を話すわけにはいきません。また息子には息子の人生がありそれは息子の好きにさせたかったのです。
母親が死んだとき息子に私の仕事について息子の今後について聞く機会がありました。息子は私の仕事を引き継ぎたいといってくれました。正直うれしかった。
すぐに息子を中国の大臣、これは私のパトロンというか上のお方です。そのお方に挨拶に行かせました。息子に私の仕事を引き継がせたいよろしくお願いしますという文を持たせてやりました。
しばらくして息子は帰ってきました。私がどうだったと聞くとああとしかいいません、なにかあったのです。時代は変わります、関係も力関係も変わるのです。しかし本当の事情はわかりません。仕事がなくなったのかといえばそうでもありません。息子は仕事をこなし、私も手伝いをします。なにも変わりません。ただ息子は変わってしまった。私は後悔しています。いままでどおりでいればよかった。私だけがこの仕事をこなし息子は自由にしてやればと、息子に何を聞かれても不老長寿の酒を造るのが仕事だと笑っていればよかったのです。
そこで、杜氏は中国茶をすすり、わたしたちにもすすめるのでした。茶だけはね、緑のには慣れませんでした。
息子もそれは同意見でしたよ。

続

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2376l/

兵士不純21~30

2010年12月30日04時42分発行